市場経済と計画経済はどう違うのか？

大須賀 美樹

1. はじめに

中国において、改革開放前の計画経済システムは現代中国の経済発展に一定の貢献を果たした。しかし、改革開放期に入るとソ連や東欧社会主義諸国に続き中国も社会主義体制下の市場経済化への道を歩み始めた。この経済の市場化が漸進的に導入されたことにより、中国は目覚ましい経済成長を実現し、それなりの成果を収めている。中国経済の発展に大きな影響を及ぼした二つの経済体制だが、具体的にどのような違いがあるのだろうか。ここでは市場経済と計画経済の違いについて、南亮進(2012)を参考にして述べたい。また、それぞれの経済体制のメリット・デメリットを踏まえつつ、どちらを支持するか私の意見についても述べていきたい。

2. 市場経済と計画経済の違い

市場経済のもとでは、私的所有権が認められ、生産や消費の決定が個々の企業や消費者に委ねられ、経済全体の資源配分が価格メカニズムによって処理される。市場経済においては、各経済主体(生産者・消費者)が、みずからの持つ正確な情報に基づいて行動すれば、あとは価格が全体の調整媒体となって資源の最適配分がもたらされる(南亮進(2012)p26)。つまり、多くの売り手と多くの買い手が自由にさまざまな商品売り買いできる場のことを言う。それにより需要と供給がバランスよく行われ、物やサービスとお金が効率よく流通するのである。それに対して計画経済のもとでは、国家(政府)の計画が価格の資源配分機能を代替する。そこでは、中央政府管理機関の指令計画によって物資の生産から配分までの一連の経済活動を処理することが目指された(南亮進(2012)p26)。つまり、政府が生産や消費の情報を掌握し、その情報に基づいて資源の適正な配分を決定するのである。

3. メリットとデメリット

上記に述べた二つの経済体制それぞれのメリットとデメリットについて考えてみる。

まず、市場経済では消費者が自由に買うものを選択できるため、企業同士の競争が起こる。この競争により商品の低価格化、サービスの充実、機能の改良などが行われ、消費者はさまざまな商品の中から自分の好みに合わせて商品を自由に選択することができる。これらは消費者にとってのメリットであるが、企業の成長にも大きな役割を果たすと言える。しかし、市場において競争の敗れた企業はどうか。倒産を余儀なくされ、失業者が出る可能性も考えられる。その結果、貧富の差の拡大が生じる。計画経済に対して、効果的な公平性に欠けるため、競争の結果に左右されやすいのが市場経済のデメリットと言える。

一方計画経済では、政府の指令計画に基づいて決められたものを決められたように作るため、無駄がなく、競争もない。そのため格差は広がりやすく、また、大規模な経済崩壊が起こる可能性も低い。市場経済に対して、公平・平等であるのが計画経済のメリットと言える。しかし、競争がないため労働者の勤労意欲の欠如がもたらされること、資源配分上の非効率などがデメリットとして挙げられる。

4. おわりに

価格メカニズムによって資源の最適配分がなされるのが市場経済、一方で政府によって計画的に資源配分がなされるのが計画経済である。

この二つの経済体制の違いについて理解し、それぞれのメリットとデメリットを踏まえた上で私は市場経済に賛成である。やはり、経済発展には競争が必要不可欠だと考えるからである。競争があることで、労働意欲の向上に繋がり、それにより質の高い商品や新しいサービスが次々に生まれ、人々の暮らしを豊かにしていく。しかし、競争によるリスクは大きい。市場経済の原理とは別の枠組みで所得の分配のための政策などを行っていく必要があるだろう。

<参考文献リスト>

南亮進・牧野文夫(2012)『中国経済入門 世界第二位の経済大国の前途』日本評論社